

## 資料 9

# 上野山構成員提出資料

# デジタル行財政改革会議の今後 AI・デジタル改革推進会議に期待する役割 ～目的起点 (Purpose First) のAI活用を～

PKSHA Technology 上野山勝也

本日は、取りまとめいただいた内容に敬意を表します。医療・介護、教育、防災、行政など、AI やデータ活用を具体的な政策へ落とし込まれており、日本の行財政改革が新たな段階へ進んだことを大変心強く感じています。AI・デジタル改革推進会議へ改組するにあたり今後の期待についてです。

AI 推進にあたり最も重要なのは、デジタルも DX も AI もすべては手段であり目的ではないという事です。AI を目的化せず手段に留めるためには、AI を使って日本としてのどのようなありたい姿を実現したいかの「的/目的」を決める必要があります。目的起点 (Purpose First) は AI 原則の最重要原則の一つではないかと思います。

まず、日本として AI を通じてどのような社会を実現したいのか、その国家目的を定義することが重要だと考えます。

参考までに、産業界で起きていることを整理すると、AI の目的は大きく四つに整理できると考えます。

- 第一に、生産性向上と労働力制約の克服です。AI による自動化・業務効率化を通じて、人手不足という日本最大の課題を乗り越えること。
- 第二に、AI の付加価値向上への活用による、産業競争力と経済成長です。医療、製造、モビリティなど日本の強みと AI を組み合わせ・高度化し、Physical AI やロボティクスを含めた新たな付加価値を創出すること。
- 第三に、国民生活とウェルビーイングの向上です。教育や医療の個別最適化、プッシュ型行政などにより、AI は繋がりを増やす事ができる。一人ひとりに寄り添い違いを包摂する社会を実現することができます。
- 第四に、科学技術と国家能力の強化です。AI for Science、防災、安全保障、EBPM などを通じて、国家の研究力・判断力・実行力を高めることです。

目的 First を強調する理由を最後に述べますと、AI は近未来、単なる技術ではなく、その国が守りたい文化や価値観、国民性を映し出す鏡になるということです。AI と社会の姿は未来においてはコインの表裏です。故に、海外の成功事例を表面的に模倣するのではなく、日本はどのような AI 社会を目指すのか、日本にとっての AI Sovereignty とは何かを、自らの言葉で方向性を提示することこそ、AI・デジタル改革推進会議に期待される最も重要な役割だと考えています。今後期待しております。

以上